

# 厚生福祉


 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社  
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可  
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)  
 購読料金 税抜月額4,100円  
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。  
 ©時事通信社2019  
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)  
 kousei-dokusha@jiji.com

## 目次

連載 第1回	2
詳説・働き方改革	
「働き方改革」の目指すもの	
労働生産性向上、一億総活躍プラン、関連法成立	
中央省庁ニュース	8
太陽光買い取り2割減額＝19年度、家庭の負担抑制/筆記試験なしの選考も可能＝障害者の常勤昇任で通知 ほか	
進言(山口市子ども未来部長)	9
特集	10
ひろしま国際センター	
医療通訳ボランティアを派遣	
ニュース	12
妊婦加算凍結の背景	
焦りの公明、霞が関揺さぶる	
アクセシブルデザインの世界	14
第67回 Nerimaユニバーサルコンサート	
スコープ	15
恵方巻きにも需給バランスを	
インタビュールーム	16
私たちの工夫	17
ニュースフラッシュ	18
子どもの校外教育費用を助成/シニア世代にサークル補助金 ほか	

## 外国人

昨年の大相撲九州場所所でテレビは、横綱・稀勢の里の4連敗と休場を連日放送した。そのとき、アナウンサーや学識経験者と呼ばれる人々などが稀勢の里を「日本人横綱」と口をそろえて言い続けた。私はそれを聞いて違和感を禁じ得なかつた。確かに相撲は国技といわれるが、だからといって、外国籍の力士も迎え入れたのなら、いつまでも外国籍の横綱と日本人とを区別し続けるのはいかがなものか。外国人を入れて相撲の存続を優先したのだったら、既にそのときから国籍の問題にすべきではないと思う。

国会でもにぎやかに外国人労働者の受け入れ問題が取り上げられ、その中で介護業には6万人の

社会福祉法人新生会  
 名誉理事 長 石原美智子



受け入れが検討されている。

高齢者介護の現場は、日中だけの介護よりも24時間の介護の方が多いし、時として夜勤は一人仕事になる。疾患のために正常ではない言動を無意識にしてしまう人や、孤独や障がいを受け入れ難いとする人々を相手に行うのが現場である。

同じ言語や文化の下で育っているはずの者同士でも、なかなか連携したりチームをつくったりするのに四苦八苦しているのが現状である。

半世紀近く高齢者介護の世界に身を置く者として、己の親を他人に委ねなければならぬ時代に、残念ながら預ける子供世代が外国人に偏見を持っているとしたら、現場での混乱は今以上に、経営

者だけではなく現場の職員にも押し寄せてくることが懸念される。

外国人だからできないとは思わないが、仮に「日本人がやりたがらない業種だから単に数合わせとして外国人を迎え入れる」というのなら、自分の親だけはそれは困るということはあるのではないのだと自覚すべきである。

相撲の世界と同様、介護の世界も外国籍の人々を受け入れるのであれば、家族や指導する自治体、外部評価組織はもちろん、事業者や職員も含めて、外国人に対する偏見を持たず、ささいな判断ミスや言葉などによる誤解が生じた場合でも温かく指導し、皆で受け止めていく環境をつくり出していかなければならない。

いずれにしても、少子高齢社会として大変困難な時代を迎えていることだけは確かである。